

職業実践専門課程の基本情報について

| 学校名 | 設置認可年月日 | 校長名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------------------|--|--------------|---|--|------|----|--------|---|------|------|----------|---|-----|-----|------------|---|-----|-----|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 大阪観光専門学校 | 昭和60年3月30日 | 植田 宏美 | 〒530-0003 大阪府大阪市北区堂島2-3-11 (電話) 06-6344-5259 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 設置者名 | 設立認可年月日 | 代表者名 | 所在地 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学校法人Adachi学園 | 昭和42年1月12日 | 安達 暁子 | 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台二丁目11番地 (電話) 03-5283-6288 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 分野 | 認定課程名 | 認定学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 商業実務 | 観光専門課程 | エアポート学科 | 平成6年文部科学省 告示第84号 | — | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学科の目的 | 航空業界で求められる専門知識を修得し、実習授業を通してキャビンアテンダント、グランドスタッフ、貨物ハンドリングスタッフ、マーシャラーなど100%の就職を目指す。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 認定年月日 | 平成29年2月19日 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 修業年限 | 昼夜 | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | 1920 | 1,312 | 0 | 608 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 生徒総定員 | 生徒定員 | 留学生数(生徒定員の内) | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 40人 | 38人 | 10人 | 3人 | 7人 | 10人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学期制度 | ■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日 | | 成績評価 | ■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席状況、試験・提出課題による点数評価 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長期休み | ■学年始:4月1日 ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月20日～1月8日 ■学年末:3月31日 | | 卒業・進級 条件 | 試験等に合格し、本校所定の課程を修了したと認められた者 学費等の滞納がないもの | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 学修支援等 | ■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席の多い学生や、経済面で不安を抱える学生などに対し、 本人及び保護者へのカウンセリングを行う。登校できない場合 は、家庭訪問及び電話やメールを利用したのカウンセリング | | 課外活動 | ■課外活動の種類 姉妹校とのEXTENSION講座の実施、学園祭等の実行委員会 ■サークル活動: 有 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 就職等の 状況※2 | ■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 株式会社JALスカイ大阪、株式会社JALグランドサービス、株式会社ANA関西空港、株式会社ANA成田エアドサービスほか ■就職指導内容 自己分析指導、エントリーシート作成指導、履歴書作成指導、 SPI試験対策、受験対策(国語・数学・社会)、面接指導、 グループディスカッション対策 ■卒業生数 19 人 ■就職希望者数 19 人 ■就職者数 19 人 ■就職率 : 100 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 100 % ■その他 ・進学者数: 0人 ・無業者数: 0人 (平成 30 年度卒業生に関する 令和1年5月1日 時点の情報) | | 主な学修成果 (資格・検定等) ※3 | ■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実用英語技能検定</td> <td>③</td> <td>15人</td> <td>10人</td> </tr> <tr> <td>マナープロコール検定</td> <td>③</td> <td>20人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 | | | 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | 実用英語技能検定 | ③ | 15人 | 10人 | マナープロコール検定 | ③ | 20人 | 18人 | | | | | | | | |
| 資格・検定名 | 種 | 受験者数 | 合格者数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 実用英語技能検定 | ③ | 15人 | 10人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| マナープロコール検定 | ③ | 20人 | 18人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中途退学 の現状 | ■中途退学者 2名 平成30年4月1日時点において、在学者48名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者46名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 精神面の不調、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任面談、奨学金案内、休学案内、転校手続き、出席不足者への補講、成績不振者への追再試験実施 | | ■中途退学率 5% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 経済的支援 制度 | ■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 ※有の場合、制度内容を記入 校友会(同窓会)入学時奨学金制度、校友会(同窓会)進級時奨学金制度、特待生試験制度 ■専門実践教育訓練給付: 給付対象・非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 第三者による 学校評価 | ■民間の評価機関等から第三者評価: 有・無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 当該学科の ホームページ URL | http://www.daikan.ac.jp | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業生に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業生に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業生に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業務の細分化が進む現代において、学生が目指す業界の専門知識・技術を習得することは社会及び当該業界への貢献をはじめ、社会的意義の高いものであると考える。当該業界の企業と連携を取ることで、学生は現場の声を吸収し、企業は求める人材の育成に直接携わることができ、また学校は今後の授業科目・内容の再考等企業と学生を結ぶ実践教育と位置付け、就職後業界で活躍できる人材の育成を目的に職業実践教育を実施している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 ※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校法人Adachi学園設置 大阪観光専門学校に關係する、業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、学術関係者から選出し、校長が委員の中心となり委員会を設置。委員会の意見等は校長の配下の各学科の分科会等で具現化する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和1年4月1日現在

| 名 前 | 所 属 | 任 期 | 種 別 |
|--------|----------------------|------------------------------|-----|
| 山崎 誠 | (株)JTB総合研究所 観光教育事業部 | 平成28年4月1日～ 平成32年3月31日(4年) | ③ |
| 富原 敦 | TBKエアポートグランドサービス株式会社 | 平成28年4月1日～ 平成32年3月31日(4年) | ③ |
| 戸口 貴之 | サンヨー航空サービス株式会社 | 平成28年4月1日～ 平成32年3月31日(4年) | ③ |
| 下城 惇 | 東方典礼カトリック教会 | 平成28年4月1日～ 平成32年3月31日(4年) | ③ |
| 高井 均 | 北条鉄道株式会社 | 平成28年4月1日～ 平成32年3月31日(4年) | ③ |
| 朴 美玲 | スイスホテル大阪南海株式会社 | 平成28年4月1日～ 平成32年3月31日(4年) | ③ |
| 富澤 利加 | ハイアットリージェンシー大阪 | 平成28年4月1日～ 平成32年3月31日(4年) | ③ |
| 植田 宏美 | 大阪観光専門学校 校長 | | |
| 加藤 和幸 | 大阪観光専門学校 学務実務責任者 | | |
| 中名生 政秀 | 大阪観光専門学校 キャリアセンター長 | | |
| 谷口 香織 | 大阪観光専門学校 学科長 | | |
| 前田 匡論 | 大阪観光専門学校 学科長 | | |
| 藤井 幸也 | 大阪観光専門学校 学科長 | | |
| 森本 めぐみ | 大阪観光専門学校 学科長 | | |
| 宮本 真衣 | 大阪観光専門学校 学科長 | | |

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、9月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年3月27日 17:30～19:00

第2回 平成30年9月25日 17:30～19:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

現在の各業界が求める知識・技術と現行カリキュラムの妥当性の確認、企業が求める人物像に育成するための授業内容の検討を行い、即戦力として求められる知識・技術・マナー社会常識を反映したカリキュラム及び授業内容の構築を図る。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

連携企業よりプロフェッショナルを講師として派遣していただき、校内にて実習授業を展開する。また、学期末実習試験により、講師より学習成果の評価をいただく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業と連携し、講師と学科長が打ち合わせを行った上で、カリキュラムを立案する。
航空業界に必要な専門技術、専門知識、ビジネススキルなどを学ぶために講師を派遣していただき、講義・実習を経て、将来航空業界で即戦力として働くことができる人材を育成する。また授業運営中も定期的に学科長主導の下進度の確認を行い、習熟度をチェックする。

| (3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。 | | |
|-------------------------------------|------------------------------------|----------------------|
| 科目名 | 科目概要 | 連携企業等 |
| CRS実習 (AXESS) | 日本航空グループの航空予約端末であるAXESSの操作方法を修得する。 | 株式会社 アクセス国際ネットワーク |
| | | |
| | | |
| | | |

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「研修等」を実施し、教員として必要な知識と質の向上を図り、学生の知識・技能等の修得と充実した学校生活を提供できるよう、定期・不定期に拘らず関係教職員の指導力向上を目指すことを目的として実施するものとする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「伊丹空港・旅客サービス研修」(連携企業等: (株)JALスカイ大阪)
期間: 平成1年9月4日(水) 対象: エアポート学科長及び専任教員3名、兼任教員2名
内容: 現場での最新のサービス実態を見学し、航空業界のサービスに対する取り組みを学ぶ。また連携企業の指導者層との懇親を通じて航空業界が求める資質を理解することで、学生に対する指導力の向上を図る。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「精神的な問題を抱える学生に対する対処方法」(連携企業等: 本校心理カウンセラー 増田恵子氏)
期間: 平成30年3月27日(水) 対象: 専任教員11名、兼任教員68名(全教職員対象)
内容: 心理カウンセラーの講演を聞き、不登校や人間関係の悩みなど精神的に問題を抱える学生に対しどのような接し方を行うべきか、ロールプレイングを交えながら理解を進め、継続率の向上を目指す。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「グランドハンドリング業務実務研修」(連携企業等: ANA成田エアポートサービス(株))
期間: 令和2年2月20日(木) 対象: エアポート学科長及び専任教員3名、兼任教員2名
内容: 成田空港でグランドハンドリング業務を受託する企業に出向き、貨物の取扱いや地上支援業務の重要性の説明を始め学生が学ぶべき内容の提案をいただき、実務教育の充実を図るための交流を行う。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「出席不良学生対応事例検討」(連携企業等: 関西カウンセリングセンター)
期間: 令和2年3月20日(金) 対象: 専任教員12名、兼任教員71名(全教職員対象)
内容: 新入生を迎えるに当たり進級・卒業・就職内定など2年間の目標をたて学業に臨むが、なかなかその状態に向かない学生や出席状況が芳しくない学生がおり、そのような学生との面談結果を研究事例に継続率の向上を目指し研修を計画している。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校自己評価や日常の学校教育及び運営に対しての評価・意見内容を教育活動面と学校運営面に分けて検討し、学務・広報・事務の各部門で運営方針に照らし状況を確認する。授業内容に取り入れるべきもの、改善を要するものが見受けられた場合は各部門から責任者会議等の意思決定機関に上申し、最終判断を求めることにより学校関係者評価の有効活用を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの評価項目 | 学校が設定する評価項目 |
|----------------|---------------------------------|
| (1) 教育理念・目標 | 学園の理念、学校の目的・特色の明確化と育成する人材像 |
| (2) 学校運営 | 運営方針に即した事業計画を策定、運営組織の意思決定機能の円滑 |
| (3) 教育活動 | 職業教育に適するカリキュラムの策定に際し、その学科の関係する業 |
| (4) 学修成果 | 学校継続率、就職率の向上 |
| (5) 学生支援 | 在学生への経済的・健康管理・生活全般への支援体制並びに卒業生 |
| (6) 教育環境 | 授業運営上の付属施設、設備、実習施設の環境及び防災体制の整備 |
| (7) 学生の受入れ募集 | 学生募集全体の適正と活動上における教育成果の正確な伝達の確認 |
| (8) 財務 | 予算・収支計画の有効性と財務面の適正 |
| (9) 法令等の遵守 | 法令の遵守、個人情報取り扱い確認 |
| (10) 社会貢献・地域貢献 | — |
| (11) 国際交流 | — |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校基本方針に即し、学科の教育目標、育成人材像が業界のニーズ・社会の現状に対応できているか、カリキュラムは体系的に編成され、各教科目はカリキュラムの中で適正な位置付けされているか、卒業生就職率・求職者就職率・専門業界就職率の向上が図られているかなどの点を学校関係者評価委員からの評価を重視し、学校運営に活かす。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年4月1日現在

| 名前 | 所属 | 任期 | 種別 |
|--------|------------------|-----------------------------|-------|
| 山本 真弘 | 株式会社 夢現社 代表取締役社長 | 平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年) | 企業等委員 |
| 本井 啓治 | 本井公認会計士事務所 | 平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年) | 企業等委員 |
| 藤井 卓 | 株式会社TAC 代表取締役 | 平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年) | 企業等委員 |
| 渡邊 政人 | 株式会社 アイドマフォト | 平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年) | 企業等委員 |
| 小笠原 圭彦 | 小笠原写真事務所 | 平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年) | 企業等委員 |
| 高田 泰夫 | 株式会社 サップス | 平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年) | 企業等委員 |
| 下城 惇 | 東方典礼カトリック教会 主任司祭 | 平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年) | 企業等委員 |
| 森本 博士 | 株式会社 創英 | 平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年) | 保護者代表 |
| 橋本 匡史 | 株式会社 東京ビジネス | 平成28年4月1日～ 令和2年3月31日(4年) | 卒業生 |

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <http://www.daikan.ac.jp>

公表時期: 令和2年10月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校全般の状況を広く一般に情報提供することにより、学生・保護者、業界関係者の学校への理解及び信頼を深め、社会に対する説明責任を果たす。また企業、関係団体等とは連携・協力を行うことにより、カリキュラム策定の際に助言、指導をいただき、実践教育の質を高めることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

| ガイドラインの項目 | 学校が設定する項目 |
|------------------|---|
| (1) 学校の概要、目標及び計画 | 建学の精神、所在地、校長名、沿革・歴史 |
| (2) 各学科等の教育 | 設置学科の入学定員・収容定員・在学学生数、カリキュラム、進級・卒業要件、資格・ |
| (3) 教職員 | 教職員数 |

| | |
|--------------------|-----------------------|
| (4) キャリア教育・実践的職業教育 | キャリア教育への取り組み状況 |
| (5) 様々な教育活動・教育環境 | 学校行事、課外活動 |
| (6) 学生の生活支援 | 健康診断、カウンセリング体制 |
| (7) 学生納付金・修学支援 | 学生納付金、経済的支援活動 |
| (8) 学校の財務 | 資金収支計画書・消費収支計画書・貸借対照表 |
| (9) 学校評価 | 自己評価表 |
| (10) 国際連携の状況 | — |
| (11) その他 | — |

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <http://daikan.ac.jp>

授業科目等の概要

| (観光専門課程エアポート学科) | | | 令和1年 | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|------|------|--------------|--|---------|--------------|-------------|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業 時 数 | 単 位 数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 空港業務実務 | 空港内のさまざまな仕事の内容を理解し、基本的な空港での業務の流れを学ぶ。 | 1前 | 32 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 航空関連用語 | 航空専門用語から空港の機能を学び、国内外の空港の特徴やその問題点などを研究する。 | 1前 | 32 | | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 通関実務 | 国内・国際の運送約款をもとに、航空便利用上のさまざまなルールを学ぶ。 | 1前 | 32 | | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 関税法 | 今後の国際貿易について関税の種類・仕組み・税率など関税の法律を学習していく。 | 1後 | 32 | | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | CRS (AXESS) | 航空会社と直結した予約端末機「アクセス」を使用し、予約・発券業務の実習を行う。 | 1通 | 128 | | | | ○ | ○ | | | | ○ ○ |
| ○ | | | 各種特殊無線 | 法規・無線工学の基礎から無線の使用方法を学び、第3級陸上特殊無線技士合格を目指す。 | 1前 | 32 | | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 接遇話法 | お客様とのコミュニケーションを円滑に行うために必要な話力とサービスマナーを実践的に学ぶ。 | 1通 | 64 | | | | ○ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 旅行業務知識 | 海外の時刻表の見方、バス、船舶、ホテルなどの利用と予約方法を学ぶ。 | 1前 | 32 | | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | CRS (APOLLO) | 航空会社と直結した予約端末機「アポロ」を使用し、予約・発券業務の知識を学ぶ。 | 1後 | 32 | | | | ○ | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 話し言葉検定対策 | 自分の考えや思いを伝える確かな話しことばを身につけ、より良いコミュニケーションを構築する。I | 1後 | 32 | | ○ | | | ○ | | | | ○ |
| ○ | | | 英語検定指導 | 学生の能力別に筆記試験、リスニング双方の対策を実施する。 | 1通 | 64 | | ○ | | | ○ | | | | ○ |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|--|--------|---|----|-----|----------|---|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|--|-----|
| ○ | | 観光英語 | ホテル・レストラン・観光地などで日常的に使用する観光英語を筆記・リスニングの両面から学ぶ。 | 1通 | 64 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | |
| ○ | | 英会話 | 外国人教師との豊富なシチュエーション演習を通して、英語でのコミュニケーション能力を高める。 | 1通 | 128 | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | ○ |
| ○ | | パソコン実習 | ビジネスソフト「オフィス」のWORDを基本に、入力の基本操作と作表技術を習得する。 | 1通 | 64 | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 時事研究 | 最新のニュース解説に加え、現代社会の問題を考えて基礎的な時事知識を身につける。 | 1前 | 32 | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | ○ |
| ○ | | B検対策 | ビジネス能力検定ジョブパス3級の受験指導を行う。後半は2級対策に移行する。 | 1前 | 32 | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 一般教養 | 社会人として恥ずかしくない、基本的な日本の常識を身に着ける。 | 1後 | 32 | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | ○ |
| ○ | | 就職対策 | 就職活動に対する心がまえ、お客様の状況を考え、お客様の立場に立ったサービスの提供を学ぶ。 | 1後 | 32 | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | ○ |
| 合計 | | | | 18 | 科目 | 896単位時間(| | | | | | | | | | | | | 単位) |

| 卒業要件及び履修方法 | | 授業期間等 | |
|------------|--|----------|-----|
| | | 1学年の学期区分 | 2期 |
| | | 1学期の授業期間 | 16週 |

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

| (観光専門課程エアポート学科) | | | 令和1年 | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|------|------|--------|---|---------|------|-----|------|----|----------|----|----|----|----|---------|
| 分類 | | | 授業科目名 | 授業科目概要 | 配当年次・学期 | 授業時数 | 単位数 | 授業方法 | | | 場所 | | 教員 | | 企業等との連携 |
| 必修 | 選択必修 | 自由選択 | | | | | | 講義 | 演習 | 実験・実習・実技 | 校内 | 校外 | 専任 | 兼任 | |
| ○ | | | 航空関連法規 | 国内・国際の運送約款をもとに、航空便利用上のさまざまなルールを学ぶ。 | 2後 | 32 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 航空業界研究 | 空港内のさまざまな仕事の内容を理解し、基本的な空港での業務の流れを学ぶ。 | 2後 | 32 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 世界空港研究 | 空港の機能を学び、国内外の空港の特徴やその問題点などを研究する。 | 2後 | 32 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 貿易実務 | 貿易実務の知識が問われる「貿易実務検定」取得を目標とした対策授業を行う。 | 2後 | 32 | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 航空特殊無線 | 航空特殊無線技士の認定講習で、法規（電波法）、無線工学、電気通信術を受講する。 | 2前 | 32 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 時事英語 | 英字新聞を読みながら、時事英語を習得し、TOEICのスコアアップを目指す。 | 2前 | 32 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 海外文化地理 | 海外の観光資源・地理の知識を増やし、初歩的 | 2後 | 32 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | 英語検定指導 | 学生の能力別に筆記試験、リスニング双方の対策を実施する。 | 2前 | 32 | | ○ | | | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 英会話 | 外国人教師との豊富なシチュエーション演習を通して、英語でのコミュニケーション能力を高める。 | 2通 | 128 | | | | ○ | ○ | | | ○ | |
| ○ | | | 観光英語 | ホテル・レストラン・観光地などで日常的に使用する観光英語を筆記・リスニングの両面から学ぶ。 | 2前 | 32 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |
| ○ | | | TOEIC | 英語を母国語としない人々の世界共通の英語能力試験スコアアップのテクニックを学ぶ。 | 2通 | 64 | | ○ | | | ○ | | ○ | | |

